

教科 科目名	公民科	単位数(週あたりの授業時数)		2 単位
	公共	履修学年(類型)	2 学年	M・S科
教科書名(出版社名)			新版公共(数研出版)	

●学習到達目標

現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸課題の解決に向けて、概念や基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、表現することを通して、国民主権を担う公民としての自覚を深める。

●学習計画

学期	月	単元名	学習内容	
1	4・5月	第1章 公共的な空間をつくる私たち	第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	青年期の課題、古代ギリシア・中国の思想、三大宗教、古代から近世の日本の思想家について理解し、自分の生き方の参考にできることはないか主体的に近世から現代の西洋の思想家の思想内容について理解し、選択・判断の手掛かりとなる考え方を見につけ、現代の諸課題について主体的に考察する。 民主主義の基本原理や、日本国憲法の三大原理や内容について理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方について考察する。
	6月	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	
	7月	第3章 公共的な空間における基本原則	第1節 民主社会の基本原則 第2節 日本社会の基本原則	
2	9月	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	日本の政治機構や選挙のしくみ、地方自治のあり方について理解し、主体的関わろうとする意欲を養う。 日本経済の歩みや、市場機能のしくみ、財政と金融のあり方について理解するとともに、経済社会に生きる一員として意欲的に日本経済の課題を探索し、豊かな社会へ向けての見通しを持つ。
	10月	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方	第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	
	11月	第6章 国際社会の動向と日本の役割	第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力	
	12月	第7章 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	課題探究の観点 課題探究の手引き	
3	1月	第8章 現代の諸課題と私たちの生き方	第1節 現代の諸課題と私たちの生き方 第2節 現代の諸課題と私たちの生き方 第3節 現代の諸課題と私たちの生き方	現代社会の課題を指摘し、課題解決に向けた方法について、適切な資料等を収集・選択・分析し、レポートにまとめる。
	2月	第9章 現代の諸課題と私たちの生き方	第1節 現代の諸課題と私たちの生き方 第2節 現代の諸課題と私たちの生き方 第3節 現代の諸課題と私たちの生き方	
	3月	第10章 現代の諸課題と私たちの生き方	第1節 現代の諸課題と私たちの生き方 第2節 現代の諸課題と私たちの生き方 第3節 現代の諸課題と私たちの生き方	

●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	現代の諸課題を捉え考察し、概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現できる。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民としての自覚を深める。
B	現代の諸課題を捉え考察し、概念や理論について理解するとともに、資料から必要となる情報を調べまとめる技能をおおむね身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に考察し、公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現することがおおむねできる。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度や、現代社会に生きる人間としての自覚や、国民主権を担う公民としての自覚を持っている。
C	現代の諸課題を捉え考察し、概念や理論について理解するとともに、資料から必要となる情報を調べまとめる技能を身に付けることが難しい。	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に考察し、公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現することが難しい。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度や、現代社会に生きる人間としての自覚や、国民主権を担う公民としての自覚が不足している。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査によって、出題範囲の知識・技能の習得状況、思考・判断・表現の能力を評価する。 ○ 学習活動の様子や発表、討論、ワークシートの記述などの内容を評価の資料とする。 ○ 単元ごとの振り返りや課題探求のレポートを評価の資料とする。 		
評価の重み	$\alpha=0.4$	$\beta=0.4$	$\gamma=0.2$